



1月号 令和3年1月12日発行

荇田小だより

横浜市都筑区荇田南町694番地 [TEL911-0149]



竹、節ありて強し

～節をつくる教育活動を目指して～

校長 伊藤 智樹

新年明けましておめでとうございます。検温や体調管理などに日々ご協力くださった保護者の皆様には心より感謝申し上げます。昨年からのコロナ禍は依然収束せず、緊急事態宣言が神奈川県下にも出され、先の見通しがもてない状況下ではありますが、今年一年が皆様にとりまして、充実した時となりますようお祈り申し上げます。

竹は、日本各地に広く分布し、古来より私たちの生活に密着した様々なものに利用されてきました。そのため縄文時代の遺跡からも竹を素材とした製品が出土しています。本校の周囲にも竹林が多く見られます。常緑でしなやかで倒れにくく、まっすぐに伸びる竹はその特徴から生命力を象徴するおめでたい植物の一つとして正月飾りの門松にも使われています。

冒頭の「竹、節ありて強し」ですが、**「軽くてしなやかで倒れにくく、まっすぐに伸びる」という竹の特性には節の存在**が大きく関わっています。

実験的に画用紙などを筒状に丸めて節のない状態の空洞の筒を左右に振ってみるとすぐに折れ曲がってしまいます。このことから節は竹の強度を高めるためにあると言えます。また通常の植物では幹や枝の先端に成長点があるが、竹の場合節ごとに成長点がありその数は成長に伴って増えるのではなく「たけのこ」の時からすでにあるそうです。

5年ほど前の記事に山梨大学や北海道大学、熊本県立大学などの共同研究で竹の特性に関する研究成果が発表されていました。隣り合う節と節の間隔は、一定の規則性に従うよう絶妙に調節されており、結果として、野生の竹が「軽さ」と「強さ」を併せ持つ理想的な構造を**「自律的に」**形成しているとの内容でした。

竹の節の間隔を測ってみると根元が狭く、上に行くにつれて広がります。さらに先の方になると根元と同様に狭くなってきます。間隔が狭いのは丈夫にするためです。根元は自重に耐えられるように、先の方は枝葉を支えられるように狭くなっています。この記事を読んで節の全ての間隔を狭くすればより丈夫で強固な竹になるのではと思いましたが、丈夫になり過ぎると横からの強風に対して弱くなり折れてしまうそうです。中ほどが広いのはしなやかさが生まれ、横から受ける風の力を逃がせるようにしています。



竹は「たけのこ」の段階から少しずつその成長過程に「節」を作って伸びていきます。節は竹の成長にとって欠かせないものです。子どもたちの成長にも同様なことが言えると考えます。学校教育の中では、教科学習や行事等の教育活動が節を作っていくための成長点とも言えます。そしてよりしなやかで強く倒れにくくするために隣り合う節同士の間隔を子ども自身が自律的に形成できるための教師側の指導がとても重要であると考えます。

コロナ禍で節を作っていくための教育活動が制限されている中ではありますが「節」を学校や家庭、地域や社会でそれぞれが互いに連携し合いながら作っていきたくと思います。

今年も地域と共に歩み、保護者・地域の皆様から信頼できる学校を目指し、教職員一丸となって努力を積み重ねて参ります。昨年同様、温かいご支援ご協力をよろしくお願い致します。